

北海道運輸局の バリアフリーの取組について

実施趣旨

○各市町村へ移動等円滑化促進方針(マスタープラン)及びバリアフリー基本構想の作成をプロモート

実施概要

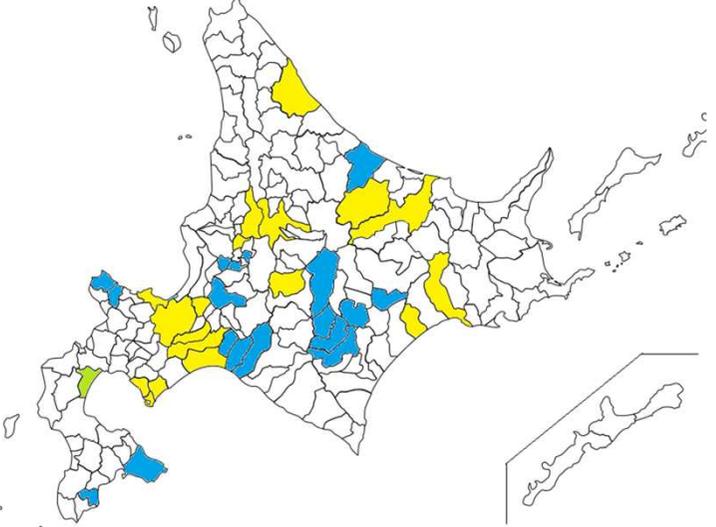
○プロモート内容

- ・ 移動等円滑化促進方針(マスタープラン)・バリアフリー基本構想の概要説明
- ・ 移動等円滑化促進方針(マスタープラン)・バリアフリー基本構想の作成メリット
- ・ 北海道における移動等円滑化促進方針(マスタープラン)・バリアフリー基本構想の作成状況 等

○プロモート先 (18市町へ実施)

6月22日	函館市			
6月23日	知内町			
7月11日	古平町	積丹町	(7月11日は北海道開発局同行)	
10月31日	新得町	清水町		
11月1日	音更町	本別町		
11月2日	帯広市	芽室町		
11月13日	紋別市			
2月1日	むかわ町	安平町	厚真町	
3月5日	岩見沢市			
3月15日	歌志内市	奈井江町		
3月22日	浦臼町			

※ 青色：令和5年度にプロモートを実施した自治体
 ※ 緑色：マスタープラン策定済の自治体
 ※ 黄色：基本構想策定済の自治体



障がい当事者にもご協力いただき、講話や乗降車・介助体験等を通じて配慮すべき点を確認するとともに、乗務員と障がい当事者相互の意思疎通を図ることによって、心のバリアフリーを推進。

鉄道事業者

- 開催日 令和5年9月～10月
- 共催 北海道旅客鉄道株式会社
- 協力 (一社) 函館視覚障害者福祉協議会、NPO法人手と手、NPO法人プリズムさっぽろ、(社福) 北見市社会福祉協議会、(一社) 室蘭身体障害者福祉協会、NPO法人キウシト湿原・登別、カムイ大雪バリアフリースターセンター、(社福) 釧路市社会福祉協議会、
- 後援 北海道
- 参加者 北海道旅客鉄道株式会社 社員
- 実施概要
 - ① 座学
 - ・ 障害者差別解消法の考え方
 - ・ 接遇ガイドラインに基づく接遇方法
 - ・ 視覚障がい・車いすユーザー当事者による講話
 - ・ 意見交換
 - ② 実技
 - ・ 車いすユーザー・介助体験
 - ・ 視覚障がい者・介助体験



J R 北海道研修センター (札幌)



J R 名寄駅



J R 東室蘭駅



J R 北見駅

北海道開発局と共催で内部職員向けのバリアフリー教室を開催し、バリアフリープロモーターである、北星学園大学の鈴木克典教授に「バリアフリーの現状と今後の方向性」についてご講演いただいた。

- 開催日 令和5年12月1日（金）
- 主催 北海道運輸局 北海道開発局
- 後援 北海道
- 参加者 北海道運輸局及び北海道開発局職員 39名
- 実施概要

「バリアフリーの現状と今後の方向性」

- ・バリアフリー法について
- ・バリアフリーとユニバーサルデザインについて
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン実践例

○主な感想

- ・障害者差別解消法における「合理的配慮」がユニバーサルデザインにつながり、不明瞭と感じていた「合理的配慮」をユニバーサルデザイン7つの原則に当てはめると、少し明確化された感じがあり感銘を受けました。
- ・具体的な例（特定の建物や乗り物）をもとに、これまでどのような変革（歴史）があり、時点におけるユーザーの広がりや、利便性の向上が図られてきたのかを知ってみたいとなった。（どういった視点に着目することが大事だったのか等）
- ・公共事業として整備を進める場合、現行の規格・基準等を準拠する必要があり、求められる機能をより良く達成するためにはPDCA、OODAを円滑に進める事が重要であることを改めて感じた。



札幌国際大学の学生、先生を対象に札幌市営地下鉄福住駅でバリアフリー教室を開催し、視覚障がい者、高齢者の疑似・介助体験と車いす体験、介助体験を行った。

- 開催日 令和6年1月26日（金）
- 主催 北海道運輸局
- 共催 札幌市交通局
- 後援 北海道
- 協力 NPO法人 手と手
- 参加者 札幌国際大学 学生3名、先生1名
- 実施概要

- ①視覚障がい者疑似・介助体験
- ②高齢者疑似・介助体験
- ③車いす体験、介助体験

○主な感想

- ・車いす、視覚障がい、高齢者の疑似体験をすることにより、地下鉄などの実際の公共施設を多様な方々が利用していることを体感しました。今回、ハード面とソフト面の視点が重要であることを学び貴重な機会となりました。
- ・私のイメージでは体育館やコミュニティセンターなどでやるイメージでした。ですがそれはあまり実用的ではないと思っていましたが、今回実際に使われている地下鉄でのバリアフリー教室はとても実践的でよかったです。
- ・とてもいい体験でした。もっとみんなにも体験してもらいたいと思います。



【視覚障がい者疑似・介助体験】



【車いす体験、介助体験】



【高齢者疑似・介助体験】

○開催実績（平成13年度～令和5年度）

年度2	平成13年度	～	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	計
回数	1回		11回	19回	10回	18回	337回
人数	58名		349名	528名	290名	664名	13,370名

○令和5年度 開催回数：18回 ○参加人数：664名

○実施市町村：9市町（札幌市、函館市、室蘭市、釧路市、帯広市、北見市、名寄市、当別町、浦臼町）

日程	場所	参加対象者	参加人数	体験内容等
R5.7.8～7.9	イオン札幌平岡	「“バス楽しんでこ”イベント2023」参加者	184	バス車内のバリアフリーの説明 車いす乗車体験
R5.7.16	北海道旅客鉄道(株)・ ロイズタウン駅 駅前広場	「当別町バスまつり2023」 参加者	136	バス車内のバリアフリーの説明 車いす乗車体験
R5.7.22	樺戸山金剛寺	「夏のてらこや」参加者	41	体験：視覚障害、高齢者
R5.9.2	イオン札幌平岡	「北海道バスフェスティバル」 参加者	51	バス車内のバリアフリーの説明 車いす乗車体験
R5.9.19	帯広市立花園小学校	帯広市立花園小学校6年生	24	あすチャレ！ジュニアアカデミー
R5.9.26	北海道旅客鉄道(株)・函館駅	JR北海道 社員	10	講話：障害者差別解消法 体験：視覚障害
R5.10.4	JR北海道研修センター	JR北海道 社員	16	講話：車いす（10/4）、視覚障害（10/5） 体験：視覚障害、車いす（両日）
R5.10.5			15	
R5.10.11	北海道旅客鉄道(株)・北見駅	JR北海道 社員	3	講話：視覚障害、車いす 体験：視覚障害、車いす
R5.10.12	新札幌わかば小学校	新札幌わかば小学校4年生	66	体験：視覚障害、車いす
R5.10.19	北海道旅客鉄道(株)・東室蘭駅	JR北海道 社員	8	体験：視覚障害、車いす
R5.10.22	北星学園大学	札幌市内小学校3年生	15	講話：視覚障害 体験：車いす
R5.10.23	北海道旅客鉄道(株)・名寄駅	JR北海道 社員	10	講話：視覚障害、車いす 体験：視覚障害、車いす
R5.10.26	北海道旅客鉄道(株)・釧路駅	JR北海道 社員	9	講話：視覚障害、車いす 体験：視覚障害、車いす
R5.11.24	北見市立若松小学校	北見市立若松小学校1～6年生	23	あすチャレ！ジュニアアカデミー
R5.12.1	札幌第一合同庁舎	北海道運輸局及び 北海道開発局職員	39	講話：ユニバーサルデザイン
R5.12.7	とちか帯広空港	空港関係者	10	講話：車いす 体験：車いす
R6.1.26	札幌市営地下鉄・福住駅	札幌国際大学 学生、教員	4	体験：視覚障害、車いす、高齢者

新型コロナウイルス感染症の影響により小中学校等へ赴いて実施する当局主催のバリアフリー教室が減少しており、教室開催数を増加させるための取組として、札幌市教育委員会へ協力依頼を実施。

○相談日 令和6年7月12日（火）

○場所 札幌市教育委員会

○相談概要

運輸局から、バリアフリー教室の概要及び小中学校等において、バリアフリー教室の開催数を増加させたい旨等を説明。

市内学校に周知するにあたり、どのような手法があるのか、具体的なスケジュール等を相談。

○相談結果

運輸局から札幌市教育委員会へ依頼文を送付後、教育委員会より各学校へ文書を発出したことになった。

○今後の予定

希望あれば令和6年10月よりバリアフリー教室を実施。
今回の取組結果を踏まえて、次年度以降の増加取組を計画。

※今年度はバリアフリー推進課職員が自ら講師となる事を想定

「心のバリアフリー」進めませんか？

「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとするコミュニケーションをとり、支え合うこと。
障がい者等が安心して日常生活や社会生活が出来るようになるためには、施設整備（ハード面）だけでなく、障がい者等の困難を自らの問題として認識し、心のバリアを取り除き、その社会参加に積極的に協力する「心のバリアフリー」が重要。

北海道運輸局が「バリアフリー教室」を開催し、疑似体験、介助体験等をしていただく場を提供します。

～バリアフリー教室募集要項～

- ・期 間：令和6年10月1日～令和7年3月末日。同期間に20校程度実施見込み。
- ・可能人数：1回あたり50名程度 ※相談可。
- ・必要時間：1回あたり2コマ（45分/コマ）程度 ※相談可
- ・講 師：北海道運輸局交通政策部バリアフリー推進課職員
- ・費 用：無料
- ・疑似体験：車椅子、視覚障害者、高齢者体験 疑似体験に使用する「車椅子」「アイマスク」「白杖」等は北海道運輸局で準備。
- ・使用場所：【車椅子体験】 体育館（マットを使用）、廊下、水飲み場等
【視覚障がい者・高齢者体験】スタート・ゴール場所となる受容教室、廊下、階段 等
- ・留意事項：バリアフリー教室中における生徒の安全確保は学校において、ご対応願います。
応募校多数の場合、実施不可となる場合もございます。予めご了承ください。

～応募期限等～

- 【期限】 令和6年9月13日（金）まで
 - 【Mail】 hktkyougyouka-h111@milit.go.jp
 - 【Mail記載必須事項】
 - ・学校名、学年、人数
 - ・希望日時（複数ご提示ください）（記載例：7/24（水）5・6時間目）
 - ・担当者氏名、役職、連絡先（Mail、電話番号等）
 - ・留意事項（あれば）
- ～問い合わせ先～
北海道運輸局交通政策部バリアフリー推進課
三浦、赤坂、吉田、久野
電話：011-290-2725
Mail:hktkyougyouka-h111@milit.go.jp

バリアフリー教室 募集！

北海道運輸局職員が学校に出向き、バリアフリー教室を開催いたします。
車椅子、視覚障がい者等の疑似・介助体験を通じて「心のバリアフリー」の意識を高めます。
関心のある学校におかれましてはご応募につきご検討ください。

募集要項

- ・期 間：令和6年10月1日～令和7年3月末日。同期間に20校程度実施見込み。
- ・可能人数：1回あたり50名程度 ※相談可。
- ・必要時間：1回あたり2コマ（45分/コマ）程度 ※相談可
- ・講 師：北海道運輸局交通政策部バリアフリー推進課職員
- ・費 用：なし
- ・疑似体験：車椅子、視覚障がい者、高齢者体験 疑似体験に使用する「車椅子」「アイマスク」「白杖」等は北海道運輸局で準備して持参いたします。
- ・使用場所：【車椅子体験】 体育館（マットを使用）、廊下、水飲み場、バリアフリートイレ、飲水機など
※1回1コマ実施を予定とします。
- ・留意事項：【視覚障がい者】スタート・ゴール場所となる受容教室、廊下、階段 等
バリアフリー教室中における生徒の安全確保は学校において、ご対応願います。

令和6年9月13日（金）までに必要事項を記載のうえ、以下の宛先までご連絡ください

- ・必須事項
- 学校名、学年、人数
- 希望日時（複数ご提示下さい）（記載例：7/24（水）5・6時間目）
- 担当者氏名、役職、連絡先（メール、電話番号等）
- 留意事項（あれば）

・連絡先 北海道運輸局交通政策部バリアフリー推進課
hktkyougyouka-h111@milit.go.jp

北海道運輸局交通政策部バリアフリー推進課 三浦、赤坂、吉田、久野
電話：011-290-2725
メール：hktkyougyouka-h111@milit.go.jp